

宇宙科学・探査ロードマップのフレームワーク改訂案

資料 2

JAXA宇宙科学研究所

※赤字：改訂部分

カテゴリ	概要	規模	頻度
戦略的に実施する中型計画(海外主導ミッションへの中型計画規模での参加含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・世界第一級の成果創出を目指し、各分野のフラッグシップ的なミッションを日本がリーダーとして実施する。 ・これに加え、先行的かつ戦略的な検討・技術開発等が必要となる海外主導の国際大型ミッションへのより存在感ある参加も含む ・政府衛星(JAXA衛星・探査機含む)は基幹ロケット(H3クラス)での打上げを想定。 	最大400億円程度/機 (注1:海外主導ミッションへの参加の場合に当たっては、JAXA主導ミッションにおける相当部分の経費を考慮した資金規模を原則とする(例:観測機器提供であればバス及び打上げ費等不要になるため、100~200億程度)。)	10年間に3回
主として公募により実施する小型計画	<ul style="list-style-type: none"> ・適正規模のミッションでタイムリーかつ高頻度な成果創出を目指す。 ・政府衛星(JAXA衛星・探査機含む)は基幹ロケット(イプシロンS)での打上げを想定。 	最大180億円程度/機 (ECO公募は最大100億円程度/機)	10年間に5回
戦略的海外共同計画(海外主導ミッションに中型計画の規模を上回らない規模で参加することも必要に応じ検討)	日本のヘリテージを活用することによる海外ミッションへのパートナーとしての参加や国際宇宙探査の観測機器の搭載機会等を活用するなど、多様な機会を最大に活用し成果創出のを最大化を図る。	10億円程度/年 (注2:単年度10億円程度の規模を踏まえ、1回当たりの規模は最大50億円を基本とする)	—
小規模計画	国内外の研究者の幅広い提案を公募し、海外の観測ロケット・大気球、国際宇宙ステーションなどの飛翔機会を利用するなどした計画を推進。	数億円程度/年	—

- ・注1、2：これらを実施する場合、中型計画や小型計画の頻度・規模を基本としつつ10年間の予算規模の中で柔軟にプログラム全体の調整を図る。
- ・いずれのミッションカテゴリにおいても、これまで新たな強みとなる技術を生み出してきた理工一体での独創的・先鋭的な技術の実証ミッションに係る取組を含み得る(必要に応じて外部資金の活用も検討)
- ・上記のフレームワークに収まらない、月・火星関連といった人類のフロンティアへ挑戦し、外交・安全保障等多様な政策目的にも資する比較的大規模の宇宙科学ミッションについては、国際宇宙探査と連携して実施する。
(※なお、上記のフレームワークの範囲において、我が国の強み等を踏まえた宇宙科学全体の多様性や幅を確保しつつ、月・火星関連の計画を推進することも考えられる。)